うもれ木

魚津埋没林博物館広報誌
第 5 号
発 行 日：平成８年９月30日
編集発行：魚津埋没林博物館
印　　刷：魚 津 印 刷 ㈱

天 頂 弧
（環天頂アーク）

夏の日の夕方、上空に虹色の帯が見えました。現れる方向や形が虹とは違います。

これは天頂弧という現象です。天頂弧は、太陽が低い位置にあるときに、上空に無数にある氷の結晶がプリズムの役割をしてできます。

比較的珍しい現象で、太陽から離れて頭の真上近くの空に現れるので、ふだんから頭上に注意していないと見過ごしてしまいます。氷の結晶によってできる現象なので、寒い時期のほうが現れやすいかもしれません。

（平成８年７月30日午後５時30分頃、埋没林博物館で撮影）

あなたの知らない魚津

学芸員　石須秀知

魚津市は、富山県東部海岸線のまんなかあたりにある。“魚津”の名のとおり、漁業も盛んで魚がおいしい。そして、いわゆる“三大奇観”、蜃気楼・埋没林・ホタルイカがある。蜃気楼は春の海上にゆらゆらと現れる一種の気象現象で、冬にも違うタイプのが見られる。埋没林は約1500年前のスギの原生林跡で海面下に埋没している。ホタルイカは５cmほどの発光するイカで、春に産卵のため沿岸に押し寄せてくる。これら三大奇観はいずれも海に結びついている。このように魚津は海の街というイメージが強い。

ところが地図を開いてみると、魚津市の半分以上は山地である。海岸からの奥行約25kmの間に急激に高さを増している。では、魚津市でもっとも高い地点はどこで、何ｍあるのだろうか。

魚津市の南東部は、北アルプス立山連峰の北側に続き、そこには通称毛勝三山と呼ばれる毛勝、釜谷、猫又の三座を中心とした山群がある。このうち釜谷山の2415ｍが最も高く、これが魚津市の最高地点である。最低地点は海岸の０ｍであるから、魚津市は海岸から高山帯まで、2415ｍもの標高差があることになる。

博物館から毛勝三山を望む

そこで、ふと興味を持った。海岸の０ｍから始まって2400ｍ以上もの標高差を持つ市町村は日本全国にどのくらいあって、魚津は何番目なのだろうか。さっそく調べてみた。（海岸の０ｍからというのがミソである）

コンピュータにそのようなデータベースがあれば話は早いのだが、あいにく手元にそんな便利なものはないので手作業である。市町村を一つ一つ調べるのは難しいので、まずは日本の各ブロックの最高峰から調べてみた。2400ｍ以上の山がないブロックの市町村は調べる必要がない。この段階で北海道、東北、近畿、中国、四国、九州地方が脱落し、残るのは関東、中部地方だけである。ここで“海岸の０ｍから”という条件をつけると、海のない県が脱落し、残るは11都県。そのなかで2400ｍ以上の山があるのは新潟、富山、石川、静岡の４県だけである。ここまで来れば、４県のなかで海岸に接する市町村と2400ｍ以上の山との位置関係を調べればよい。

と、ここで日本一の富士山が比較的海に近いことを思い出した。調べてみると案の定、静岡県富士市は海岸から富士山の山頂まで伸びている。０ｍから3776ｍ、文句なしの日本一である。

では第２位を当てられる人はいるだろうか。第２位は静岡市である。静岡市の最高地点は、静岡・山梨の県境、間ノ岳の3189ｍである。静岡市がそんな山奥まで伸びているとは知らなかった。

続く第３位は富山県にあった。しかし魚津市ではなく、下新川郡朝日町である。最高地点は白馬岳の2933ｍ。第４位は新潟県糸魚川市で、小蓮華山の2769ｍが最高地点。第５位は同じく新潟県の西頸城郡能生町、最高地点は火打山の2462ｍである。ようやく魚津市は第６位に登場した。（調査漏れがあったらお許し下さい）

魚津市は惜しくも５本の指からは漏れてしまったが、全国で第６位なら立派なものである。

晴れた日に博物館の展望室から南東を望むと、雄山や剱岳、薬師岳など立山連峰の中心をなす山々を脇に退け、毛勝三山と僧ケ岳がその堂々たる威容を誇っている。魚津の海岸に立って毛勝三山を仰ぐ機会には、奥行約25km、標高差2415ｍの中に、三大奇観をはじめ、動植物や地質などさまざまな自然遺産が凝縮されていることに思いを巡らせてみてはいかがだろうか。

シリーズ

埋没林の仲間たち ⑤

アカメガシワ

Mallotus japonicus（Thunb.）Muell. Arg.

「カシワ」というと、柏餅に使われるブナ科（どんぐりの仲間）のカシワを思い浮かべると思いますが、その親戚ではありません。昔、食べ物を盛るのに使われる葉をまとめて「かしわ」と呼んでいたそうで、若葉(芽)が赤いことからアカメ（赤芽）ガシワとなったようです。

４～５月頃、日当たりのよい川原や空地、公園などで赤い若葉をつけているこの木が目につくことがあります。葉は少しざらざらした感じで、長い柄があり、たまご形からハート形に近い形で、浅く三つに分かれることもあります。芽や若葉が赤く色づく木には、生け垣などにするカナメモチ（アカメモチ）などがありますが、葉の形が違うので間違えることはないでしょう。

アカメガシワの花

アカメガシワの花は小さく、６～７月頃に枝の先に集まって咲きます。果実はやわらかいトゲがあり、熟して割れると中から濃い青紫色の種子が現れます。

富山県では丘陵地を中心に、市街地でもちょっとした空地や公園などによく生えています。

＊

魚津埋没林では、1989年の発掘調査で種子が多数出土し、花粉も検出されています。

（学芸員／石須　秀知：いしず　ひでとも）

この展示物☆ここに注目

２号館・縄文土器片

２号館のガラスケースの中に、小さな土器のかけら（土器片）が展示されています。この土器片は、昭和27年に埋没林を発掘したときに、根の下から発見されました。今から約3000年前、縄文時代後期末のものと推定されます。

魚津埋没林が発見された昭和５年頃、埋没林ができたのは今から5000～10000年ぐらい前と考えられました。ところがこの土器が樹根より下から発見されたため、埋没林は土器より新しい2500年前、あるいはもっと後にできたものと考えられるようになりました。（現在では1300～2000年前と考えられています）

土器片は小さなものですが、その小さな発見から埋没林の年代が大きく書き換えられることになったわけです。

（学芸員／石須　秀知：いしず　ひでとも）

行事報告

春の動植物観察会

平成８年４月～８月

４月27日　博物館教室「春の動植物観察会」
５月25日　博物館教室「海岸～河原の野鳥と草花観察会」
７月27日　博物館教室「片貝川南又谷の洞杉観察会」
８月１日　企画展「うごきまわる植物」（～９月30日）

これな～に！？

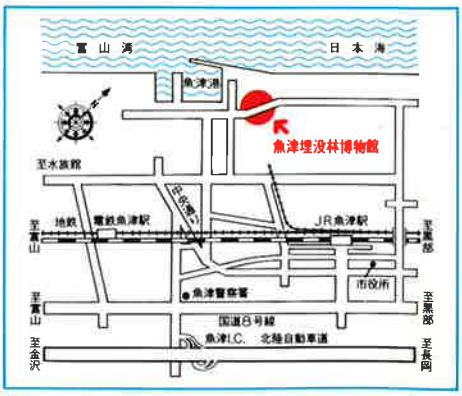
博物館の芝生で写真のような植物を見つけました。へらのような形の葉が一枚あり、その付け根から伸びた柄の先にはつぼみのような物がならんでいます。しかし、この植物に花は咲きません。口を開けたつぼみのような部分からは黄色い粉が出てきます。

これはハナヤスリという仲間のシダです。花のように見える部分も葉の一部でここから出る粉は胞子（ほうし）です。シダにはこのように胞子を出す特別な葉（胞子葉：ほうしよう）を持つ仲間があります。ハナヤスリの仲間は胞子葉の形をやすりに見立ててこの名前がついています。

博物館にはいろいろ見るものもありますが、周りの雑草などにも目を向けてみると別の発見があるかもしれません。

ご利用案内

○開館時間　午前９時～午後５時（入館は４時30分まで）
○休 館 日　12月～３月の月曜日、祝日の翌日、年末年始（４月～11月無休）
○入 館 料　・大人（高校生以上）…500円　・小中学生…250円
○交　　通　・ＪＲ北陸本線・富山地方鉄道 } 魚津駅下車（タクシー…５分／徒　歩…15分）
・北陸自動車道魚津ＩＣより車10分



特別天然記念物　魚津埋没林博物館
〒937 富山県魚津市釈迦堂814 ☎ (0765) 22－1049